

塩崎氏ら超党派「保守の会」

塩崎恭久氏を会長とする超党派の「日本を根っこから変える保守の会」が8月31日に42人(本人出席35人、代理7人)で発足した。会長代行に田中康夫(新党日本)、田中和徳(自)、副会長に浅尾慶一郎(みんな)

な)下地幹郎(国民新)新藤義孝(自)、幹事長に松野頼久(民)、事務局長に河井克行(自)の各氏と多彩な顔ぶれである。

塩崎氏が経緯を語った。「5月の連休に下地、糸川正晃(民)とワシントンに行き安保関係で協議した。この滞米中に『いまのままでは日本はもたない。国家が崩壊してしまう』という共通認識を話し合った」

「2大政党、特に民主党に問題あり、との認識である。」
「民主党がぶれている。分配政策中心で、これは社会主義であって資本主義ではない。東電の賠償スキームも外国からは社会主義とみられている。全国で電力料金値上げなど、全体の活力をそぎながら賠償しようとしている。だから安易な増税はしない」
戦略目標は。「保守主義を背景にして国家ビジョンを示していく。ビジョンと哲学をもとに政党の整理、再編成を目指す。自民党もぶれている。だから超



4283

党派で取り組む。ビジョンの中身が大事なので、メンバーも増やし、よく話し合って決めていく」
会長代行の田中康夫が言った。「いま野田内閣ができて、民主も自民も同じ増税党になった。われわれは役人依存の増税とは違う。その人間たちが集まった」

下地氏が塩崎氏との友情を語った。「かつて私が自民党を除名され、

苦しい選挙を戦ったとき、自民党から3人だけ応援にきてくれた。塩崎、渡辺喜美、麻生太郎だ。この3人は公明党の推薦を取り消された。」

塩崎は厳しい場面で決断力がある。大切な友人だ」
会の方向性は。「民主、自民の両党は必ず行き詰まる。違つ者同士が集まりすぎている。大連立はダメ。増税もダメ。政治が動く時期が近づいている。とにかく政界再編は俺たちがやっていく」

民主党からも本人出席が13人。代表格の松野氏が言った。「みんなの党の浅尾の参加が大きい。行革を保守としてやる。民主政権2年でできなかった行革をデコに政界再編できるのでは、と期待している」

(政治評論家)

「ビジョンと哲学で」政界再編